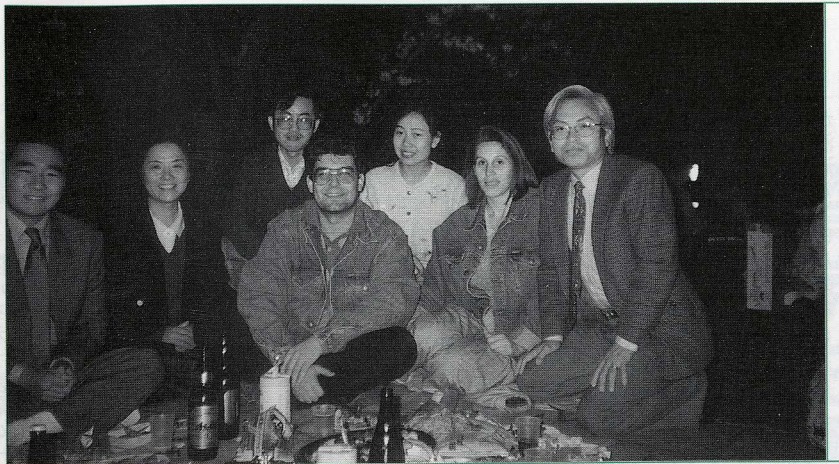


◀研究室のみんなと花見(筆者:中央)



私の日本物語

工学研究科博士課程後期2年

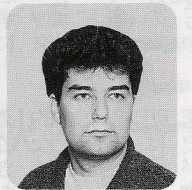
シンゴスキー・ブラトコ

PROFILE

(Cingoski Vlatko)

私は、マケドニア共和国のオホリドで生まれました。1986年にシリランドメトディ大学電気工学部を卒業し、1990年に修士課程を修了しました。

1991年4月、広島大学工学部研究生として来日し、1993年に工学研究科博士課程後期(電気機器工学教育科目)に入学しました。



しかし、実際には一種類の食べ方しかなく、しかもそれは私の嫌いなものでもした。

日本での最初の勉強は日本語で、それと並行して研究も始めました。その後すぐに私は体重が減り始めました。半年後には八・五キロも痩せました。ありがとう、日本!

私は、いつも痩せることを願っていました。しかし、私の国では、それは不可能だったので。

その頃、私は日本語の文章を作るのに三か月もかかりました。もちろん、文章ができあがったときはとてもハッピーでした。間もなく日本語の勉強も終わり、研究が大変忙しくなってきました。その頃、私の妻が日本にや

てきました。何とくつろげることでしよう。私のお気に入りの食事が食べられるのです。

「PATIENCE」の発見

その頃、私にはもう一つの問題がありました。私の研究のよい成果が出ていませんでした。その当時の教授中前先生と、現在の教授山下先生はいつも「あせってはならない。あなたのベストを尽くせば、良い結果が生まれるだ

ろう」と話されました。そのうち、私は日本のそよ風(心地よさ)を感じることができるようになり、ちょうどその頃、私にとって初めての台風一九九一年の台風十九号で、過去二十一年間で最も大きな台風と推測された一を経験しました。でもこれはそよ風ではありませんね。そして初めての紅葉狩り、初めてのお正月……。そのうち、私はとても大切なものを見つけました。それは、「PATIENCE」ということです。研究を辛抱強くやれば、結果はついてくることわかりました。今、私は電気機器工学研究室の博士課程後期の二年生です。そこで電磁界数値解析法の高速処理に関する研究をしています。

将来に向けて

私は、あえてこの物語の結びを避けます。なぜなら、この物語はまだまだおもしろく続いているのです。

初めての子供がここ日本で生まれ、家族と一緒の生活を楽しむことができようになるようになりました。私の日本語もだいぶ良くなり、今では、日本人の友人と会話するのが簡単になりました。私の研究は良い方向に向かい、私の自由時間はより楽しくなってきました。私は東広島マンドリンアンサンブルに加わり、そこでギターを弾いています。最後に最も大切なこと—私は日本の食べ物が好きになり始めたのです。今、私は本当の日本人になるための全てのチャンスを得ているのです。

プロローグ

一九九一年四月、私はマケドニアから十七時間かかってようやく大阪空港へ到着しました。日射しを浴びる満開の桜の光景が本当にすばらしい大阪で一日を過ごした後、私の街となる広島にやってきました。

この時から私の日本物語が始まったのです。私の日本行きは急に決まったので、前もって日本について勉強する時間がありませんでした。

第一ステップ

「日本で最も困ったことは？」と尋ねられたとき、多くの読者は、私が「日本語です」と答えることを期待していると思います。しかし、私の場合、それは「日本の食べ物」でした。味も肉も何もかも私は本当にがっかりしました。

私は、来日前に、日本は米の国なので、色々な方法で料理した米を食べることができると思っていました。し